

龍平年表

| | |
|----------|---|
| 0才●76年1月 | 東京都小平市に生まれる。 |
| 7月 | 生後6か月で血友病と診断。クリオ製剤使用。乳児期の3度の脳内出血もこの薬で治療。 |
| 3才●79年8月 | 非加熱輸入濃縮製剤使用開始。医師の説明は「今日から止血効果の高い薬に替えます」だけ。「アメリカで奇病」の毎日新聞見て母不安抱く。厚生省が自己注射認可し大量輸入始まる。 |
| 6才●82年7月 | アメリカで加熱製剤認可(患者知らされず)。 |
| 7才●83年2月 | トラベノール社HIV汚染の危険のある製剤を回収したと厚生省に報告書(発表されず)。 |
| 6月 | 帝京大安部英氏班長でエイズ研究班発足。 |
| 7月 | 帝京大血友病患者エイズ死の疑い否定の報道。東京医科大学病院の患者説明会に父母出席。不安になって濃縮製剤の使用控えるのは悪かと説明され安心。サマーカーンプに参加。 |
| 8月 | アメリカのエイズ専門家が帝京大患者はエイズ死と判定し厚生省に伝える(公表されず)。 |
| 9月 | 小2・家庭療法開始(母が注射)。 |
| 8才●84年4月 | 血友病治療で評判だった荻窪病院に移る。 |
| 9月 | 安部英氏血友病48人中23人の感染確認。厚生省も年末までに大量感染確認(公表せず)。 |
| 9才●85年3月 | 朝日新聞2年前の帝京大患者はエイズ死と報道。翌日厚生省は一時帰国の米国在住同性愛男性を「エイズ第1号」認定。血友病の3割感染も発表。主治医は「従来の治療を」。病院の説明は「製剤は安全」から「感染しても発病しない」に変わる。 |
| 7月 | 加熱製剤認可(非加熱製剤は回収されず)。 |
| 8月 | 小4・自己注射開始(白分で製剤を注射)。 |
| 9月 | 病院から受けとる薬が加熱製剤に切り替わる。 |



| | |
|------------|--|
| 10才●86年1月 | 母が医師からHIV感染を告知される。 |
| 12月 | 小5・母からHIV感染を告知される。「神戸で女性初のエイズ死」と厚生省発表。エイズパニック起き学校でいじめにあらう。 |
| 11才●87年1月 | 小6・発症予防目的でインターフェロン開始。帯状疱疹で荻窪病院入院。冷たくされ転院。母たちの反対押してエイズ予防法案成立。 |
| 12才●88年12月 | 東京HIV訴訟起きる。父は裁判に不賛成。裁判参加決心。共同通信の取材受ける。 |
| 13才●89年10月 | 父別居。ジョナサンの本読む。彼女に告げる。 |
| 16才●92年9月 | 高3・初めて裁判傍聴。原告同に加わる。 |
| 17才●93年9月 | NHKスペシャル「埋もれたエイズ報告」放映。 |
| 18才●94年2月 | 原告団会議で「刑事でもやってほしい」と発言。安部英氏を殺人未遂で東京地検に刑事告発。 |
| 3月 | 梅浜国際エイズ会議で外国の被害者と交流。 |
| 4月 | 原告団合宿で「僕は実名で闘いたい」と発言。初めて顔を出して公開の集会で訴える。 |
| 8月 | 実名公表。東京HIV訴訟結審(1~4次)。 |
| 11月 | 東京経済大学入学。 |
| 19才●95年3月 | あやまってよ95人間の鎖に3500人が参加。東京地裁に和解上申書提出する。 |
| 4月 | 所見と第1次和解案示される。 |
| 7月 | 人間の鎖第2弾・全国で統一行動起きる。 |
| 8月 | 成人式迎える。 |
| 10月 | 厚生省が無いと主張していた資料「発見」。 |
| 12月 | 原告団厚生省前すりわりこみに1万人が支援。 |
| 20才●96年1月 | 厚生大臣が原告に責任を認めて謝る。 |
| 2月 | ミドリ十字が加害責任認める。 |
| ?月 | 東京HIV訴訟和解成立。 |
| 3月 | 国会厚生委員会で参事人として発言。 |
| 3月 | |
| 4月 | |